



「原住民族」から見る台湾史 映画『靈山』上映会と監督ミニトーク

2019/11/06 (水) 10:40-12:10

神戸大学文学部 B231 教室

司会・コメント **濱田麻矢** 文学部教授

ミニトーク **蘇弘恩** 『靈山』監督

通訳 **鄭洲** 人文学研究科博士後期課程

(共催：神戸大学海港都市研究センター)

ドキュメンタリー映画『靈山』(2015) について

近年、少数民族圧迫に対する反省が世界中で活発になり、日本でも「アイヌ新法」が作られた。本作は、さらに複雑な民族問題を抱える台湾の「原住民族」(先住民族)「タロコ族」出身の監督が、母方の祖父を中心として撮影した作品。(台湾)「南方映画祭」グランプリなど受賞多数。

蘇弘恩 (ソ・コウオン/SU Hung-en) 監督プロフィール

台湾生まれ。台湾・世新大学ラジオ・テレビ・映画研究科修了。台湾の「原住民族」の一つタロコ(太魯閣)族と漢民族閩南系、二つのルーツの間を逡巡しつつ複数の視点から社会を観察している。現在「小花電影有限公司」社長。

